

MINAMI ONUMA 20th

南魚沼市市制施行20周年記念誌

2024

もつとあたらしく。
ずっと南魚沼らしく。





市制施行20周年記念誌の発刊にあたって

南魚沼市長 林 茂男

今年は、南魚沼市が誕生して20周年にあたる記念の年であり、人であれば「二十歳」を迎えます。市民のみなさまをはじめ、関係団体や関係機関、当市に関わるみなさまのご支援、そして先達のご尽力により、記念すべき節目を迎えることができたことに心から感謝を申し上げます。

南魚沼の地は、越後三山、巻機山などの名峰に囲まれた、全国でも有数の豪雪地帯です。山々からの雪解け水は、南魚沼産コシヒカリの生育に欠かせない滋味豊かな土壌を潤し、市内を南北に縦断する清流魚野川に注ぎます。それらが織りなす生命の息吹と四季の彩りの豊かさが南魚沼市の大きな魅力です。ふるさと納税では、全国のみなさまから多大なご支援をいただくとともに、お米、野菜や地酒など、地元が誇る特産品を、返礼品を通して日本中に知っていただくことができたと考えています。

一方、3年余りにわたるコロナ禍は、社会の仕組みや価値観を大きく変えました。現在は、コロナ禍の厳しい時を乗り越え、以前の日常生活を取り戻しつつありますが、社会の目まぐるしい変化への対応、人口減少・少子高齢化や気候変動など、南魚沼市にとっても避けることができない複雑で困難な課題が依然として山積しています。

こうした課題に真摯に向き合い、10年、20年先も南魚沼市の未来が輝き続けるため、「もっとあたらしく。ずっと南魚沼らしく。」という言葉掲げて、さまざまな事業に取り組んでいます。これまで先達が築いてきたもの、そしてこれからの次代を担う若い世代が築いていくものを大切にしながら、「ずっと住み続けたい」と思えるまちづくりを市民のみなさまとともに進めてまいります。南魚沼市のさらなる発展に向け、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

これまでの20年間の歩みを振り返りながら、市制施行20周年という記念すべき年を市民のみなさまと祝うとともに、これを契機として、これからの新しい時代に力強く踏み出していく一歩となることを祈念し、結びといたします。

南魚沼市歌

「時代新たに」

作詞：長橋正宣補作詞：いではく
作曲：遠藤実 編曲：山口順一郎

越後路渡る 朝風に

みどりの大地 目を覚ます

照る陽明るく 降りそそぎ

八海山も 雲ひかる

ふるさとの 南魚沼は

希望溢れて 伸びるまち

若鮎はねて 澆刺と

魚野の流れ 瀬もはずむ

育つ稲の穂 コシヒカリ

実りも豊か 幸まねく

ふるさとの 南魚沼は

四季の彩り 映えるまち

出湯の里に 雪国の

風情をそそる 灯がともる

日ごと楽しく 人の輪に

笑顔の花が 咲き誇る

ふるさとの 南魚沼は

時代新たに 拓くまち

「南魚沼市」

南魚沼市の名称は、旧地名をもとに明治時代初期に名付けられた郡名「南魚沼郡」に由来しています。「南魚沼」は当地の歴史・文化に根ざし、住民にとって親しみ深く、全国的に知名度が高い名称です。また、「南」には、発展性、明るさがあり、当地が魚沼地域の中核として、地域とともに発展し続けたいとの願いを込めた名称として決定しました。



「市章」

「南魚沼(みなみうおぬま)」をイメージし、市を代表する南魚沼産コシヒカリ、そして魚野川の清流と豊かな自然のもとで、自然・人・産業の連鎖と融和により発展する南魚沼市を表しています。青は、清らかな流れと澄みきった空、はてしない未知の世界を意味し、赤は、夢や希望とその実現に向けたエネルギーを表しています。

南魚沼市民憲章

- ・わたしたち南魚沼市民は、**人間**を大切にします。
- ・わたしたち南魚沼市民は、**自然**を大切にします。
- ・わたしたち南魚沼市民は、**ものづくり**を大切にします。

CONTENTS

10年間の歩み

- 雪はエネルギー資源
雪国南魚沼市の挑戦……………2
- 南魚沼市の医療の再々編……………4
- ふるさと納税の推移と寄附者からの声……………6
- 井口前市長へのインタビュー……………8
- 高野元塩沢町長へのインタビュー……………9
- 大坪賢次氏へのインタビュー……………10
- 松井利夫氏へのインタビュー……………12
- 新型コロナウイルス感染症との闘いの記録……………14
- 南魚沼市が歩んだ10年……………18

南魚沼市市制施行20周年記念

ロゴマーク

MINAMIの「M」とUONUMAの「U」を組み合わせ、お米の形になっています。やわらかいフォルムと南魚沼の澄んだ水や青空をイメージしたカラーリングで私たちが誇る南魚沼らしさを表現しています。



キャラクター

名前:うしゃり
おにぎりの形をしたうさぎのような謎の生き物です。



うしゃり

雪はエネルギー資源、 雪国南魚沼市の挑戦 ～雪国に住み続ける「誇り」の醸成に取り組む～

「雪国魚沼」ご当地ナンバー 導入断念…



アンケートで約7割の方が「長岡ナンバーのままが良い」と回答。反対理由の多くが「雪国」に対して「格好悪い、暗い」などの悪いイメージを持っていることを実感させられる出来事となりました。

雪の魅力をPR

- ビーチバレーボールのテストマッチ
- 環境省熱中症対策実証事業

東京2020オリンピックで 雪国の魅力を発信!

南魚沼の雪を世界へ!

ご当地ナンバーの導入断念を契機に、「雪国」に住む人々が地域を誇れるよう、東京2020オリンピック競技大会にあわせて首都圏で「雪国」プロモーションを始めました。令和元年8月には競技会場となる埼玉スタジアム、さいたまスーパーアリーナの周辺で雪テントの設置やスノーパックの配布などの暑さ対策の実証実験を通して雪の魅力を発信してきました。大会本番でも観客への暑さ対策として出展が決まっていたのですが、無観客開催により出展は叶いませんでした。



さいたまスーパーアリーナ周辺で南魚沼の雪をPR



さいたま新都心駅で暑さ対策の実証事業のブースを出展

東京オリンピック・パラリンピックが
ゴールではない!

雪の産業化による地域発展の実現に向けて

企業名(用途)
完成年月/冷房方式/貯雪量

南魚沼市の雪室倉庫群



(株)アグリコア(酒類)
H13.5/自然対流方式/250t



八海醸造(株)(酒類)
H25.7/自然対流方式/1,000t



青木酒造(株)(酒類)
H29.4/全空気循環方式/400t



(株)吉兆楽(米穀)
H20.3/全空気循環方式/700t
R5.3/全空気循環方式/230t



飯塚農場(野菜)
H20.7/全空気循環方式/240t



(有)きのこハウス上村(食品)
H23.3/冷水循環方式/800t

(株)八色物産(米穀)
H28.10/全空気循環方式/400t

うおめま倉友農園(株)(米穀)
H16.2/自然対流方式/60t

新潟県 南魚沼地域振興局(空調)
H16.2/全空気循環方式/650t

(株)宮田農産業(米穀)
R3.11/自然対流方式/46t

(株)内山肉店(肉・食品)
R1.5/自然対流方式/50t

雪冷熱エネルギーの活用 ～公共施設への実装に向けた雪の実証実験～

これまでの様々な実証実験を通して、市の地域性を活かした新エネルギー「雪氷冷熱利用」の可能性の追求と普及に取り組んでいます。令和5年8月には長岡技術科学大学との共同研究として、雪冷房システムの構築を目指した「雪の実証実験」を実施しました。また、令和6年度には市役所南分館1階に雪冷熱を使った冷房設備を設置する省エネへの取組や脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーの活用を市民に可視化する取組を進めています。



本庁舎の中央児童公園にかまくらテントを設置して雪冷房実験を行いました。

今後の展望 ～更なる雪の活用に向けて～

目標1 雪冷熱を活用した公共施設の省エネ化とCO2削減の取組

市ではCO2削減など環境負荷の低減を目指し、公共施設での雪冷熱の活用の検討を進めています。令和8年4月オープン予定の新健診施設への雪冷熱設備の導入を予定しています。



新健診施設の完成イメージ

目標2 雪室産品を地域特有のブランドとして育成・確立

市では雪による食のブランド化を進めており、PR動画「雪国しん化論」など、雪室施設を活用した食文化を発信しています。今後も関係事業者等と連携を図り、付加価値があるブランド品の開発に向けて、積極的なPRと品質の向上を目指していきます。



「雪国しん化論」
YouTubeで公開中



目標3 雪室倉庫群による新たなエリアブランディングの構築へ

首都圏とのアクセスの良さを活かし、企業誘致を進めるとともに、「食品・薬品等の雪室倉庫が集積する地域」というエリアブランディングの構築を目指したいと考えています。また、災害時の支援物資の拠点化や、雪配送業などの新たな事業の可能性についても検討を進めていきます。

雪室倉庫所在地



市内の雪室倉庫の集積状況

米穀保存.....	5施設
酒類保存.....	3施設
肉、野菜、その他.....	3施設
公共施設空調.....	1施設

市内にある12か所の雪室施設は最大4,800tの雪を貯めることができます。



雪室への雪入れの様子



雪冷熱を活用した食品保存により、ブランド価値を高める商品開発が市内で進んでいます。

南魚沼市の医療の再々編

～それぞれの医療機関の役割～

南魚沼市病院事業では、魚沼基幹病院や南魚沼市民病院の開院など平成27年に行われた医療の再編を補完するために、医療の再々編に取り組んでいます。



病院再々編の経緯



城内診療所

令和5年4月に特別会計から病院事業に移管し、南魚沼市民病院の附属診療所化することで医療連携を強化しました。



南魚沼市民病院

令和4年度に地域包括ケア病床を導入するとともに、令和5年度に回復期リハビリテーション病棟を開設するなど、ケアミックス病院として市民に身近な医療の質を向上させています。

H27.10.24
市民病院の竣工記念式



南魚沼市民病院

<県立六日町病院> <南魚沼市立六日町病院>

病床数	平成 ~27年 5月 199 床	平成 27年 6月 20 床	平成 27年 11月 140 床
-----	------------------------	----------------------	------------------------

平成27年

平成28年

平成29年

平成30年

ゆきぐに大和病院 (大和地域包括医療センター)

病床数	平成 ~27年 5月 199 床	平成 27年 11月 40 床	平成 30年 3月 45 床
-----	------------------------	-----------------------	----------------------

ゆきぐに大和病院 (大和地域包括医療センター)

令和6年4月に訪問看護ステーションをゆきぐに大和病院に設置するとともに、同病院を令和6年11月に診療所化し、在宅療養機能を強化した「大和地域包括医療センター」として新たな医療提供体制を構築します。



魚沼基幹病院

平成27年6月に開院した魚沼基幹病院は三次救急と高度医療を担う総合病院です。魚沼基幹病院の開院によって地域完結型医療の実現が可能になりました。



まずは健康づくりから ～新健診施設の移転～

市内全域の住民健診などに対応するとともに一次予防機能を強化するため、令和8年4月オープンを目指し、南魚沼市民病院の敷地内に健診施設を移転新築します。

また、併設する交流施設は人生100年時代に対応する健康寿命の延伸に取り組むとともに、災害時には福祉避難所として活用するなど病院に併設されるメリットを最大限発揮させ、市民の安心・安全に寄与する施設を目指します。

【施設移転のメリット】

- ・住民健診の提供体制一元化によるサービスの均一化
- ・市民病院に隣接することで医師の移動に係る負担を軽減



R6.2「南魚沼市医療のまちづくり拡大市民会議」で回復期リハビリテーション病棟について紹介しました。

令和8年4月

新健診施設
オープン予定

令和4年4月

第3病棟を地域包括
ケア病棟に変更

令和5年4月

城内診療所を附属診療所化
第3病棟を回復期リハビリテーション病棟に変更

魚沼圏域ではじめて回復期
リハビリテーション病棟を設置

令和
6年
7月 144 床

令和4年

令和5年

令和6年

令和6年4月

訪問看護ステーション開設

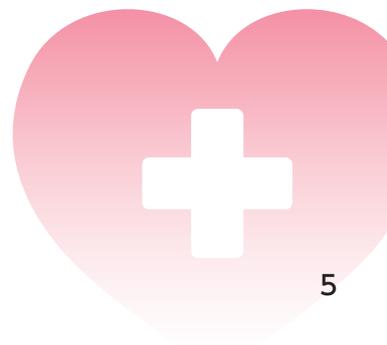
令和6年11月

大和地域包括医療センターに名称を変更
訪問看護ステーション24時間化

ゆきぐに大和
訪問看護ステーション
お気軽に
ご相談
ください

診療所化により 無床化

訪問看護機能を充実させ、
在宅療養体制の
整備を図ります



ふるさと納税寄附額
新潟県内
第1位
2021年度、2023年度



10年間の
あゆみ
III

ふるさと納税の 推移と寄附者からの声



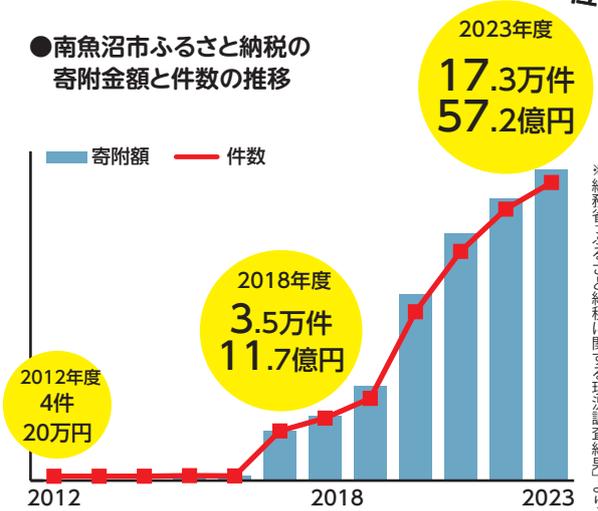
新潟県内第1位!

市では、ふるさと納税を通じて南魚沼の魅力を発信し、地域振興に取り組んでいます。お米のトップブランドである南魚沼産コシヒカリや八海山・鶴齢・高千代など日本酒をはじめ、雪の恵みからもたらされる自然や歴史文化を背景にした返礼品を多彩に揃え、全国の皆さんから好評をいただいています。

寄附金は、市が目指す将来像『自然・人・産業の和で築く安心のまち』の実現のために幅広い分野で活用され、地域の活性化や住民サービスの向上に役立てられています。

未来に向けた持続可能なまちづくりを目指し、今後も寄附者と地域をつなぐ架け橋として、ふるさと納税に取り組んでいきます。

●南魚沼市ふるさと納税の寄附金額と件数の推移



<ふるさと納税をされた方々の声>

南魚沼産こしひかりで、食卓が笑顔になります！これからも美味しいお米を未来に繋いでください。
沖縄県 女性

母の故郷、美味しいお酒造りと人も自然も豊かな町づくりを応援しています。
東京都 男性

母の生まれ故郷で今でも多くの親戚が住んでいます。自然豊かで今でも小さい頃の思い出がたくさんあり大好きです。ここ何年も訪れていませんが毎年応援させて頂いています。これからもずっと変わらず頑張ってください。
東京都 男性

子供とのたくさんの思い出がある南魚沼。そして、子供が大好きな南魚沼のお米を応援しています。
埼玉県 女性

南魚沼のお酒はどれも大好きで、スノーボードでもお世話になっています！頑張ってください！
埼玉県 男性

お酒と食べ物を楽しみに旅行させていただいています。また、行ける日を心待ちにしています。
東京都 女性



市が目指す将来像『自然・人・産業の和で築く安心のまち』 の実現に向けたふるさと納税の活用

南魚沼市は、令和3年9月に策定された第3次財政計画に基づき、寄附金を活用するための基本方針を定め、子育て支援など、政策的に推進する施策や投資的事業に活用しています。
ご寄附いただいた全国の皆さまに感謝いたします。

これまでの主な活用事業

南魚沼産コシヒカリの販売促進に活用

「農/KNOW THE FUTURE」

JAみなみ魚沼青年部を中心とした管内在住の若手農業者の全面協力の下、次世代ならではの新感覚・新発想による南魚沼産コシヒカリのプロモーションを実施。

羽田空港で南魚沼産コシヒカリをPR

南魚沼産コシヒカリの販売促進とブランドイメージをPRするため、羽田空港第1ターミナル駅のホームに、令和5年11月から2か月間、南魚沼産コシヒカリの広告を掲示。



KNOW THE FUTURE FINAL(2023) 羽田空港第1ターミナル駅のホーム

子育て支援に活用

子育ての駅「ほのぼの」の整備

平成29年12月にイオン六日町店専門店舗に子どもたちがのびのびと遊べる施設として整備。

めぐちゃん祝い金

市の活性化と子どもの健やかな成長を願い、南魚沼市での子育てを応援するため、独自の祝い金を支給。



子育ての駅「ほのぼの」

学校環境の整備などに活用

小中学校、支援学校電子黒板設置事業

ICT機器を活用した新しい授業スタイルで児童生徒の学びを深めるため、すべての普通教室や必要な特別教室に電子黒板を設置。

小中学校、支援学校の改修事業

老朽化が著しいエアコンの更新やトイレの洋式化、小中学校の大規模改修工事や統合給食センター建設に活用。

公共施設の照明LED化

小中学校、保育園、文化・スポーツ施設などの照明のLED化を推進。



小中学校、特別支援学校に電子黒板を導入

豊かな自然づくりに活用

ふるさと里山再生整備事業

里山の災害防止や、森林資源の再生・保全のため、集落周辺の荒廃した里山整備への補助に活用。森林整備が進むことで、鳥獣被害の拡大防止や森づくりへの意識啓発、次世代林業の再生基盤づくりなどの効果が期待される。



里山整備後の様子

市道や消雪施設の改修に活用

老朽化が進んでいる消雪用井戸やメーンパイプの改修及び市道の舗装打換えに活用し、市民が安全、快適に暮らせる環境整備を実施。



整備後の市道



まずは、住民の皆さんに3町の 融和を実感してもらうことから

初代南魚沼市長 **井口一郎**さん

Feel The Pioneer Spirit 【インタビュー】

vol. 1

合併に向けた協議が進められていた中で六日町長に就任した時はどのようなお気持ちでしたか。

井口氏 私就任する前から、六日町は合併することを前提に議論を進めていて、町民、議会も合併に賛成する声が多かったです。就任当初は、六日町としては既定路線であった合併を実現することを第一に進めていかなければという思いでした。当時、大和町、六日町、塩沢町である程度の「新市建設計画」を策定していましたので、3町で合併するものと考えていましたね。

平成16年11月に六日町と大和町が合併し、初代南魚沼市長に就任した時、どのようなまちにしていきたいと考えていましたか。

井口氏 「南魚沼市」が誕生してからも、塩沢町との合併がどうなるかの議論が続いていましたので、将来的には3町の合併も視野に入れていました。各町の住民感情は全く異なっていたので、まずは、住民の皆さんに3町の融和を実感してもらえないと、うまくいかないという思いがありました。また、1つの地域が抜きんでて発展するのではなく、各町の均衡ある発展も私の目標でした。

塩沢町の編入合併により「3町合併」が実現し、最初に取り組んだことをお聞かせください。

井口氏 合併当初に財政状況を整理してみたんですが、5年間で70億円もの削減に取り組みないと市の財政が危ういとの検証結果が出まして、まずは財政再建を図ることからのスタートでした。断腸の思いでしたが、職員給与と議員報酬の削減を行い、当初5年で再建する予定だったものを3年で達成することができました。当時の職員、議員の皆さんには本当に頭が下がる思いです。

在任期間中で印象に残っている出来事は何でしたか。

井口氏 まずは、新しい市の名前を何にするかでしたね。公募の中には、「美雪」、「八海」、「魚野」なんていう名前があがっていました。すでに魚沼市が誕生していましたので、「魚沼産コシヒカリ」の「魚沼」がないと農業に影響が出るといった声もあり

ましたね。最終的に「南の方が明るいんじゃないか」といった意見もあって「南魚沼市」に決定したことを覚えています。また、大河ドラマの「天地人」の舞台になったことで、「南魚沼市」の知名度は飛躍的に向上し、市全体が盛り上がったことも思い出深いです。

通期で力を注がれたことをお聞かせください。

井口氏 まずは「南魚沼市」としての形をどのようにするのかを考えましたね。六日町は行政と商業の中心、塩沢は観光、歴史、スポーツの中心、大和は医療と教育の中心といった大まかな目標を設定して、どのように投資していくかを考えていました。

反対の声もありましたが、プロ野球ができる規模の野球場の建設は印象に残っています。電光掲示板の設置ができなかったのは残念でしたが…。

あとは、市図書館の整備も印象に残っています。様々な課題に直面しましたが、私たちが想像する図書館から大きく飛躍したものが出来上がり、オープニングの時は感激したものです。

井口さんが思う南魚沼市の魅力はどんなところでしょうか。

井口氏 月並みですが、自然が素晴らしいと思っています。庁舎からも見える八海山や巻機山は素晴らしい。市民の人間性も良い人ばかりですよ。

これからのまちづくりに尽力していく方、それから今まで尽力してきた方々に一言お願いします。

井口氏 とにかく何か少しでも地域のために、人のためにという思いで活動している皆さんにエールを送りたいです。また、そういった市民の皆さんの頑張りに対しては、「感謝」という言葉を伝えたいです。



市民と行政が一体となった まちづくりを目指して

元塩沢町長 **高野武彦**さん



Feel The Pioneer Spirit 【インタビュー】

vol. 2

3町で合併の議論が進められていた当時の塩沢町はどのような状況でしたか。

高野氏 町長になる前は町議会の議長をしております、議員の時から効率的な行政体制をいかに作っていくかが大きな課題と考えていました。また、人口減少の進行やバブル崩壊以降の町の経済力の低迷などの町の課題もある中で、合併は重要な選択肢の一つであるという認識は持っていましたし、それを推進していくことが次の世代への贈り物と思っていました。

合併の議論の中でいろいろな考えがありましたが、議会との対話の中で十分議論を尽くしてきましたし、町民の様々な声があったからこそ、多くの選択肢の中で塩沢町の方向性を考えることができました。

住民投票の結果を受けて、塩沢町が合併協議から離脱することが決まった直後に町長に就任することになった当時の気持ちをお聞かせください。

高野氏 この時の町長選挙は、合併推進に賛成か反対かが争点となってしまったから、合併を推進していた立場として私が覚悟を決めて出馬しました。

編入合併という形でしたけれども、私はあまり編入合併とは思っていないんです。もともと3町で「新市建設計画」を作ってきた土台もありましたし、塩沢町の多くの関係者がこれまでつくり上げてくれたものを無駄にせず議論を前に進めたいという気持ちを持っていました。

合併の実現に向けて高野さんを動かした原動力は何だったのでしょうか。

高野氏 全国的に合併を進める流れがありましたし、県も推進していましたので、「やらなければいけない」という認識で動いていました。全国的な流れがあったにせよ、町民の皆さんの理解をいただいて議論を進めたいと思っていましたし、理解をいただけたからこそ進めてこれたと思っています。私の力だけでなく、町民、職員、関係者の方向性がまとまり、一つの大きな力となったことで合併が実現したのだと思っています。

これからも残していきたい旧塩沢町の特徴や魅力をお聞かせください。

高野氏 南魚沼市全体として魅力があると思っています。自然が豊かであること、お米がおいしいこと、雪があること。それぞれの地域でこれらの要素が関連していますから、「塩沢町が」ということではなくて、南魚沼市として大事にしてほしいです。文化という意味では、牧之通りは地域住民が協力しながら発信を続けています。すべてのことを行政が対応するのではなく、市民の皆さんの取組を応援しながら、それぞれの地域の魅力を発信していくことを進めていただきたいですね。

これから南魚沼市がどのようなまちになってほしいと願っていますか。

高野氏 例えば、少子化をいかに食い止められるかという課題に対しては、「日本一の子育て地域にする」など、一つの目標を決めてそれを推進することが必要だと思っています。私としては、楽しくスキーをする市民を見た人が南魚沼市での生活を思い描き、興味を持ってもらえるように、まずは市民が子どもの頃から雪を楽しむようなまちづくりを進めていくことが、長期的には良い形につながるのではないかと考えています。

デジタル化の推進や交通難民対策などの多くの課題があると思いますが、面倒くさいといった感覚ではなく、次の世代に何を残せるのかという感覚を持って、市民と行政が一体となったまちづくりが進んでいくことを願っています。





ニューヨーク新潟県人会会長
モンテネグロ名誉領事

大坪賢次さん

ニューヨークの実業家。1944年南魚沼郡中之島村(塩沢町→現:南魚沼市)生まれ。六日町高校、日本大学を卒業後に渡米。ルイジアナ州立大学、スタンフォード大学ビジネス・スクールで学び、ワシントン大学ロースクールの修士課程を修了し、ニューヨークで起業。現在、ニューヨーク新潟県人会会長やモンテネグロ名誉領事などを務める。

南魚沼ではどのような幼少時代を過ごされておりましたか。

大坪氏 実家が雪深いところで、朝早く起きて、兄とかんじきを履いて道踏みをして道をつくるといった生活でした。雪の上を歩いて学校まで行っていました。良い面もあったんですけど、あの頃はそういった生活が嫌だなあと感じていました。

うちは農家でしたから、冬になると親父が藁で作った藁や藁靴を使って学校に行っていました。家内は長岡出身なんですけど、「あら、そうなの。私は革靴よ。」なんて言っていましたね(笑)。

国際社会に出ようと思ったきっかけは何だったのでしょうか。

大坪氏 大学での勉強もさることながら、そこで出会う人の輪が大切だと思っていました。同じ大学の学生だけでなく、社会の人と交わるためにNHK「日曜討論」の司会をされていた有名な政治評論家の唐島基智三氏の門をたたいて政治研究会に入れてもらいました。政治研究会には、政治家になる前の河野洋平氏、江田五月氏、竹下登氏、大平正芳氏らが参加していて、私も一緒に話を聞いていたんです。

1963年11月にケネディ大統領が暗殺された後、ベトナム戦争が本格化して、「なぜ、人は戦争をするんだろう。」と思ったんです。ベトナムを見に行こうと思っていると政治研究会の人に話したところ、全員が「若いうちに行っておいた方が良い。」と言ってくれたんです。私自身、親からの支援を受ける気がなく、東京に出たその日から新聞配達、牛乳配達をしながら大学に通っていましたが、ベトナムに行く時には、牛乳配達店の親父さんが「君がベトナムに行っている間、代わりに配達をするから行ってきなさい。」と背中を押してくれて、2か月間ベトナムに滞在して戦争を学んできました。

ベトナムからの帰りの船の中で、「これからは国際社会に貢献できる人間になりたい。そのためにはアメリカに行こう。」と決めました。

海外生活では言語や文化の壁をどのように克服しましたか。

大坪氏 日本人が誰もいないところが勉強になるだろうと思いい、ルイジアナの大学を選びました。知り合いから「どうしたら英語ができるようになるの。」と聞かれますが、まずは日本語をしっかりと勉強しなさいと言っています。日本語ではっきり話さない人は外国語も無理だということですね。

日本人がアメリカ人と同等の発音で話せるわけがないんです。そんなことに劣等感を感じないで、しっかり話せばいいと思います。

日本人が海外で活躍しようと思った時、どのような努力が必要だと思いますか。

大坪氏 何かやろうと思った時に夢を描きますよね。夢は描いた段階で50%は達成しているらしいですよ。残りの50%が何かというと努力です。途中で努力を止めてしまうから夢が達成しないのであって、目標に向かって一生懸命に努力すれば大抵のことは成功するのではないかと私は思っています。

ニューヨークはどのような街ですか。また、世界から見た日本のイメージをお聞かせください。

大坪氏 ニューヨークの街はすばらしいですよ。世界中のあらゆるものが集まっている。私も様々な都市に住みましたが、音楽、芸術、経済、文化においてニューヨークは圧倒的です。

残念ながら、日本の立場は世界から見ると低くなりました。今、南魚沼市で取り組んでいるように海外に出なきゃダメですよ。一歩海外に出てみると、「日本はこんなに小さいのか。新潟はこんなに小さいのか。」ということに気がきますが、新潟にいたままではそのことに気付けないんです。「海外に出て、海外から日本を見るべきだ。」と、皆さんによく言っています。

幅広い人脈をつくる秘訣は何でしょうか。

大坪氏 「アメリカで不動産業をやるならゴルフか麻雀をやっ

の方が良いんじゃない。」と家内が勧めるものですから、40歳でゴルフを始めました。ゴルフを通して、様々な業界の著名人と出会って、アメリカ社会に溶け込んでいきました。私の人脈はほとんどゴルフがきっかけなんですよ。



人と人とは、何か理由があって出会っているんだろうなと。海外に住む日本人として、人との輪が大事だと考えていて、日本人であろうが、外国人であろうが、出会った人を大切にしています。

私は、携帯電話やメールが苦手で、1時間でも会えるならニューヨークから会いに行きます。相手には「ついでに来たんですよ。」なんて言いますが。顔を見て話をしなければ表情が分かりませんが、相手の表情を見ればその人が良い人かどうか分かるじゃないですか。電話やメールでのやりとりではなくて、私はいつも人に会いに行くんです。

海外から「故郷の人材」を育てたいと思ったきっかけと将来の南魚沼市への期待をお聞かせください。

大坪氏 一番のきっかけは家内です。人口減少が進んでいる

新潟県を活性化するには、人材の育成が大事だろうと。それには、まだ進路が決まっていない中学生を海外に呼ぼうと、いつも家内が言っておりましたので、市長や教育長の協力を得ながら、令和5年度に中学生海外派遣事業をスタートしました。

アメリカでの経験を活かした子どもたちから、1人、2人でも故郷のために貢献しようと思ってくれる人がでてくれたら良いんじゃないでしょうか。これからの南魚沼市は国際的になる必要があると考えています。国際感覚を持った人が故郷にいたことが、発展につながると思っているの、これからもこの事業を末永く続けていき、南魚沼市の発展に寄与できたら良いと思っています。



派遣生のためにニューヨーク新潟県人会が歓迎会を開催(令和5年度)

最後に南魚沼市の良いところについて一言お願いします。

大坪氏 子どもの頃は雪深いし、田舎で嫌だなと思っていましたが、今考えてみると、緑は多いし、米は美味しいし、風景は良いし、こういったところで生まれ育ったことが良かったんだろうなと思います。この南魚沼が自分を育ててくれたんだと、今は感謝しています。

中学生高校生海外派遣研修事業

平成20年から地域の発展に貢献できる人材の育成を目的に米国オレゴン州に中学生を派遣していましたが、受入先の都合により令和元年の派遣を最後にプログラムが終了。新しい派遣先を検討している際に、大坪さんから「政治・経済分野での世界の中心であるワシントン・ニューヨークを巡り、市内の中学生に大きな刺激を与えたい。」とご提案をいただき、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止していた令和2年度～4年度に資格があった高校生を含める形で、令和5年度からワシントン・ニューヨークへの派遣を開始しました。市内に住む中学生・高校生が国際的な視野を持った人材に成長することに期待し、今後も海外派遣事業を継続していく予定です。



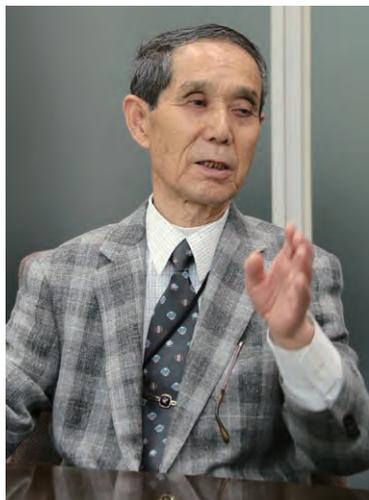
ニューヨークの国際連合本部前(令和5年度)

参加した生徒の声

実際に現地に行き、世界の広さに驚いた。海を一つ隔てただけで挨拶やコミュニケーションの取り方など、文化の違いが生まれることに感銘を受けた。

(在ニューヨーク日本国総領事公邸を訪問して) 米国人へ日本の魅力を伝えるべく総領事館がさまざまな取組をしていることを知った。自分も将来、日本と世界を結ぶ働き方ができるのではないかと思った。

石兼大使(国際連合日本政府代表部大使)の「問題解決には一人ひとりの信用の積み重ねが大切」という言葉から、人から信頼され、世界で活躍できる人になりたいと思った。



Feel The Pioneer Spirit
【インタビュー】

vol. 4

人づくり、
まちづくりを進めて
「南魚沼市」を
盛り上げてほしい

株式会社 アルプス技研
創業者・最高顧問

松井利夫さん

（株）アルプス技研創業者・最高顧問。1943年南魚沼郡五十沢村（六日町→現：南魚沼市）生まれ。六日町高校卒業後に上京。サラリーマンの傍ら夜学の専門学校で電気・機械を学ぶ。68年25歳で松井設計事務所創業、71年アルプス技研設立、81年株式会社に改組し代表取締役就任、2019年より「創業者 最高顧問」。90年代から起業家育成・企業再生事業を手がけ、起業を通じた地方創生に取り組む。

松井さんがお生まれになった1940年代と比べて、ふるさとの「ここは昔のままだな」と思うところはありますか。

松井氏 我々の生活で影響を受けているのは、自然だと思います。そういった意味では、私の生まれた五十沢はまだ変わっていませんよ。地元に戻ると「まだこの家があったのか。」なんてところはいっぱいありますからね。五十沢や城内のあたりに行くと、屋号を聞くとすごく懐かしいです。私が地元に戻ると六日町高校の同級生が宴会を開いてくれたり、姪っ子や甥っ子と話していると自然と方言が出てきたり、自然と一緒にいた人間社会の中で昔から変わらないものがあることが一番懐かしいです。方言も田舎の風景も人間と結びついて、それを大きく取り巻いているのが大自然なのではないでしょうか。私がよく使う言葉ですが、まさに昔のままの「おらがふるさと」がここにはあるということですね。

本格的な登山を多くご経験されていますが、登山から得たもの、影響を受けたことは何でしょうか。

松井氏 「登山から得たもの」というのは、答えるのは難しいのですが、私が影響を受けたという意味では、自然のありのままの姿、人間社会にないものがそこにはあるということです。これだけ世の中が複雑になっていても、いつ来ても見慣れた登山道があって、いろいろな景色がありますし、なにより自然は相手を見て差別しないですから。登山には限りなく挑戦意欲を掻き立てるものが秘められていると感じます。そう感じない人は山登りを辞めていきますから。以前、神奈川県であった表彰式のインタビューで「なぜ山登りをするのか。」と聞かれましたが、とっさに「そこに山があるから。」と答えたんです。会場が笑いに包まれたので、少し真面目に「私なりの魅力を感じただけです。」と話をしたこともありましたね。

若い時から、目標に向かって努力を惜しまなかった松井さんの原動力の根幹には何があったのでしょうか。

松井氏 母が早くに亡くなり、幼い頃から自分の事は自分でやるのが当たり前でした。年齢に関係なく「自立の精神」が育ったことが影響しているのだと思います。こういった考えは、登山の挑戦意欲に通ずるものがあると思います。

地方創生の一環として、自治体を支援するようになったきっかけをお聞かせください。

松井氏 20年以上前になりますが、当時の小泉純一郎首相が「地方を元気にしなければ日本が滅びる」と声を上げて、私も共感するところがありました。2003年に政府が地方の産業活性化を応援するため、すでに地域の産業起こしに実績がある人を「地域産業おこしに燃える人」として全国から33人選定した際、私もその1人に選ばれました。こういった経緯から、地方を回り出した時に、北海道帯広市で新しく米沢市長が当選し、周りから「面白い市長だから一度会ったらどうか。」と提案があったんです。米沢市長と何度か話しているうちに、なぜこの人が市長になったのかが分かった気がしました。帯広市を含む十勝地域は、屯田兵により開拓されたのではなく、民間人が中心となって開拓を進めました。米沢市長にもこの開拓者精神が受け継がれていて、生まれ故郷のために何かやってやろうという気持ちになったのかもしれないですね。

十勝のまちづくりには非常に夢があって、チャレンジ精神がすごいことが気に入りました。米沢市長とは、「会社を作れば雇用は生まれる。雇用の前に創業。」という意見も一致したこともあって、私が神奈川でつくった起業家支援財団と、とちか財団（事業立ち上げ、商品開発、企業間コラボなど、十勝地域における産業支援のプラットフォーム）の合併を提案し、実現しました。

十勝でのご経験は、南魚沼市の取組にどのように活かされていますか。

松井氏 六日町駅にある「MUSUBI-BA」は、とちか財団が

運営する「LAND(十勝事業創発支援センター)」という施設を参考にしています。堅苦しい施設ではなく、「LAND」のように、まず乾杯もできて、起業家がざっばらんに話せる場所にしたいと考えました。「六日町駅のあたりに酔っ払いがいるぞ。」と言われても、話の内容がただの酔っ払いとは違う。会社をどうやってつくりか、成功するにはどうしたらいいか、といった話ができる横丁をつくって、まち全体の雰囲気を変えたいですね。

また、人材育成のためにとち財団で行っている起業家の海外視察を南魚沼市でも実現してほしいと思っています。「うちの身内が海外視察に行ってきた」という話がすぐに広まりますから、これが起業家育成にはものすごく刺激になるんです。

将来の南魚沼市への期待とそれを実現するために必要なことは何だと思えますか。

松井氏 自分が生まれ育った五十沢も含めて、南魚沼市がどうなったら一番うれしいかと言われたら「良いまちになってほしい」という一言に尽きます。「おらがふるさと」が「人が出ていってしまうまち」には、なってほしくないという思いは誰もが持っているのではないのでしょうか。合併を経て一つとなった「南魚沼市」を盛り上げてほしいという思いがあります。

まちづくりは産業の活性化につながりますが、まずは人づくりから始まるものなんです。ほかの市町村から人材を引き抜くことではなく、自分の地域で人を育てることが、起業家支援、起業家育成だと考えています。まずは、その地域で育った人達を「外に出るより、ここにいた方が良い。」という気持ちに向かせないといけななんです。人づくり、まちづくりにはアイデアも費用も必要になるので、そこは私も精いっぱい応援します。南魚

沼市でも、十勝のような開拓者精神をもって、人づくり、まちづくりを進めてほしいと思っています。そうすると、私も自分の考えたことが叶っていくから、非常に夢が溢れてくるわけです。



「MUSUBI-BA」のオープンや魚沼スッポンが軌道に乗ったことなど、見本となるものが動き出したので、非常に良い方向に向かっているのではないのでしょうか。

会社経営の経験から、南魚沼市の起業家や、起業を考えている方へメッセージをお願いします。

松井氏 十勝では海外研修に行ってきた起業家が講演に出て、海外で良かったこと、帰国してうまくいっていることなどについて意見を交わしていて、これが非常に盛り上がるんです。南魚沼でも起業家のチャレンジ精神を知らしめる場を設けて、チャレンジ精神のある人たちからリーダーシップをとってもらいたいですね。南魚沼市から経済産業大臣賞や総務大臣賞をとる人が出るなど、まち全体が盛り上がるものを私からも提案していきますので、頑張ってください。私は十勝のようなことが南魚沼市でも実現できると思っています。



松井さんからのご支援の紹介

南魚沼市出身の松井利夫さんから、市の発展を願って人材育成や田園都市構想のために多額のご寄附をいただきました。

市では、松井さんからの寄附金を活用し、「南魚沼市チャレンジ支援事業」をはじめ、事業創発拠点「MUSUBI-BA」をJR六日町駅に設置するなど、起業者の育成や新たな事業の創発を促進する取組を展開しています。



事業創発拠点「MUSUBI-BA」

事業創発拠点「MUSUBI-BA」

南魚沼発の新たなビジネスプランやアイデアを実現するための空間として令和4年4月にオープンした施設です。市内の起業家・事業者のコミュニティ拠点やビジネスマンのワーキング・商談スペースとして活用されています。

南魚沼市チャレンジ支援事業

南魚沼市で地域産業に携わる個人や法人が取り組む構想段階の事業や、起業者が取り組む新事業を社会実装させるため、国内外先進地への調査研究や概念実証（POC）などに必要な経費を支援する事業です。

新型コロナウイルス感染症との闘いの記録



2019(令和元)年12月に原因不明のウイルス性肺炎の事例がWHOに報告されて以来、3年以上にわたり、市民生活に多大な影響を及ぼしました。その間、市民、市職員が一丸となって前例のない困難に立ち向かってきました。2023(令和5)年5月8日に感染症法上の位置付けが「5類」に変更されるまでの南魚沼市の軌跡をたどります。

南魚沼市の初期対応

2020.1
(令和2年)

●1/15 国内初の感染者確認

国内で初感染や横浜港に入港したクルーズ船での感染拡大以降、徐々にその感染力の強さや重症化率等が把握され、市は、緊急に措置すべき対応策を実施するため、2月10日に関係部課長会議を開催し、2月28日には「南魚沼市新型コロナウイルス感染症警戒本部」を設置。

2020.2

●2/29 県内初の感染者確認

国は、感染拡大を防ぐため、全国一斉に、大規模イベント等の自粛や学校の休校、時差出勤への協力を要請。記録的な少雪と、行動制限要請に伴う営業自粛が重なり、特に宿泊業、飲食業を中心とした市内の観光産業は、深刻な打撃を受けた。

2020.3

3/3~3/24 市内小中学校、特別支援学校を休校

緊急事態宣言

全国で感染が急激に拡大し、4月7日、7都府県に緊急事態宣言が発令され、市は、「南魚沼市新型コロナウイルス感染症対策本部」へと体制を強化し、市民の生命を最優先とした迅速かつ総合的な感染症対策と生活や雇用を守る市独自の経済支援策を開始。



南魚沼市新型コロナウイルス感染症対策本部

南魚沼市の対応
緊急事態宣言期間
第1回:2020.4/7~5/25
第2回:2021.1/8~3/21
第3回:2021.4/25~6/20
第4回:2021.7/12~9/30



市役所でも感染症対策を徹底

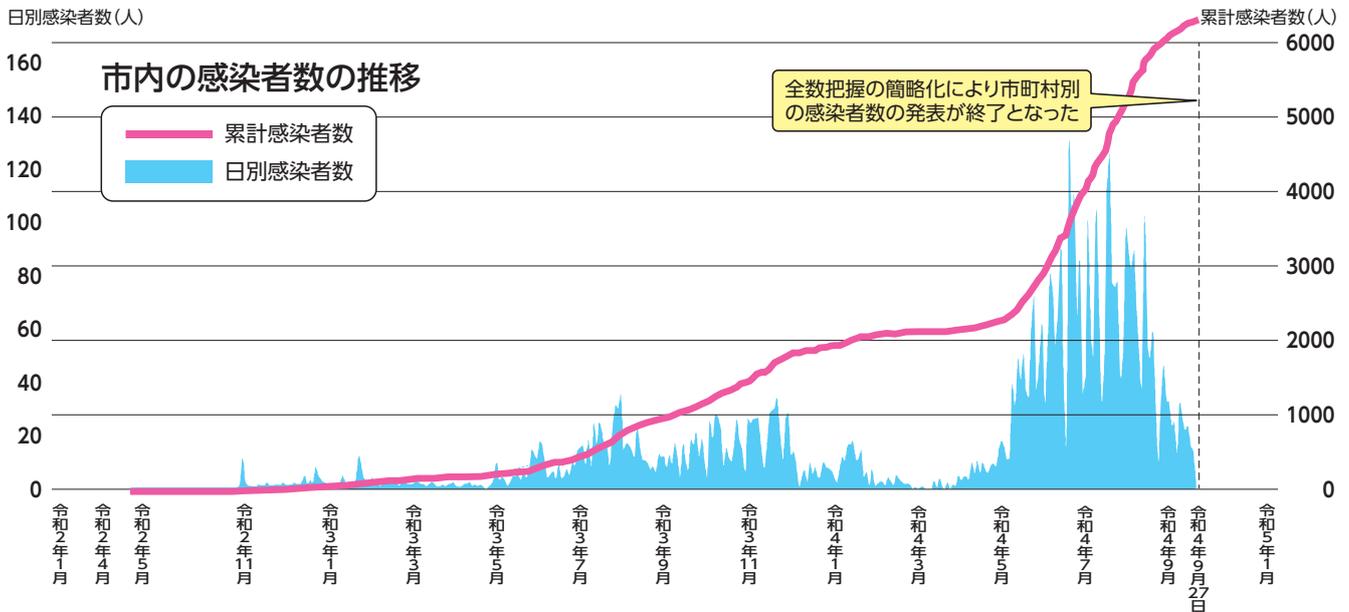


市長からの発信

市長自ら市の公式Youtubeチャンネルで、大型連休中の感染拡大防止のため、「でかけるな」、「来させるな」の徹底を市民に呼びかけました。

以降、新型コロナの経済支援活動、自粛の要請などの呼びかけを継続して行ってきました。





2020.4
(令和2年)

- 4/16 国は緊急事態宣言を全国に拡大し、新潟県にも発令(～5/25)

4/25～5/10 市内小中学校、特別支援学校を休校
4/25～5/20 文化・スポーツ施設を営業休止



医療用アイソレーションガウン寄贈

2020.5

市議会の対応

南魚沼市議会は、4月に「南魚沼市議会新型コロナウイルス感染症対策連絡会議」を発足させ、5月15日に市長に対して「新型コロナウイルス感染症対策に係る要望書」を提出。



市議会から市長へ要望書を手交

市独自の経済支援策



南魚沼市まちづくり推進機構のウェブサイトより



市職員有志による市内飲食店への弁当依頼

市は、国の「特別定額給付金(10万円)」の速やかな給付を進める一方で、事業者への支援として持続化給付金に先行し独自の経営支援給付を実施。市民や事業者により営業自粛が続く飲食業を支援するため弁当やテイクアウトによる支援を開始。

新型コロナウイルスとは? 新型コロナウイルス感染症は、2019(令和元)年12月、中国湖北省武漢市において確認されました。このウイルスは瞬間に世界中に広がり、世界保健機関(WHO)は2020(令和2)年1月30日に新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言し、その後、同年3月11日にパンデミック(世界的な大流行)とみなせると表明しました。国内でも全国に緊急事態宣言が発令されるなど、今までに経験したことがない状況に直面することになりました。



2020.7
(令和2年)

安心して利用できる宿泊施設の環境づくり

「南魚沼市宿泊施設新型コロナウイルス感染症対策推進協議会」を設立し、市内の宿泊施設向けの新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを作成。趣旨に賛同し、ガイドラインに則った対策をしている宿泊施設には「南魚沼市宿泊施設 安心・安全協議会ロゴマーク」を設置し、宿泊施設を安心して利用できる環境づくりを推進。



南魚沼市宿泊施設 安心・安全協議会
ロゴマークの設置を開始

2020.11

市内での感染拡大

11/9 市内初の感染者確認 11/11 市内初のクラスター発生

2021.1
(令和3年)

新型コロナワクチン特例臨時接種

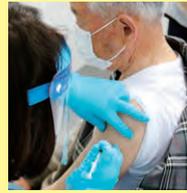
●1/7 東京都を中心に首都圏で緊急事態宣言が発令（以降、令和3年9月末まで緊急事態宣言の発令と解除が繰り返される）

2021.2

2/1 ワクチン接種の体制づくりのため、郡市医師会などの関係機関と協議し「南魚沼市ワクチン接種準備室」を設置
2/17 医療従事者への先行接種を開始

2021.4

4/1 「新型コロナワクチン接種対策室」を設置し市民の接種開始に向け体制を強化
4/25 赤石小学校を会場に65歳以上の集団接種を開始。以降、市内12会場を実施



赤石小学校会場

2021.6

●医療機関での個別接種を開始

2021.7

7/5 五日町雪国スポーツ館、旧第二上田小学校の2会場を常設として65歳未満の集団接種を開始。医療従事者等の協力のもと、日曜日接種を含めた週6日体制を構築するとともに夜間接種を行い、9割以上の市民に2回目接種を実施



■「雪のクーラー」の設置

五日町雪国スポーツ館は、連日の猛暑で室温が30℃を超える状況だったことから、7月21日に「雪のクーラー」を設置。快適な接種会場の運営に努めました。



新潟県特別警報発令

●8/3 新潟県特別警報が発令(～9月17日)同時に飲食店に営業時間の短縮を要請(南魚沼市も対象)

2021.8
(令和3年)

2021.12

12/22 新型コロナワクチン
3回目接種開始

2022.1
(令和4年)

●新潟県にまん延防止等重点措置
1/21～3/6

2022.6

6/18 新型コロナワクチン4回目接種開始
より接種しやすい環境を整えるため集団接種と、医療機関での個別接種の両輪で接種を実施。その後、集団接種会場を五日町雪国スポーツ館から市役所本庁舎に移転。一人当たり最大7回、集団接種約10万人、個別接種約12万人の計22万人を超える接種を完了

2022.9

●9/27 全国で「全数把握」の簡略化開始

2023.5
(令和5年)

5/8 感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」に引き下げられたことに伴い南魚沼市新型コロナウイルス感染症対策本部を解散

2024.3
(令和6年)

3/31 新型コロナワクチン
接種対策室を廃止

■接種回数毎の人数(累計)

1回接種	47,528人
2回接種	47,368人
3回接種	42,437人
4回接種	34,989人
5回接種	23,548人
6回接種	16,580人
7回接種	10,308人
総計	222,758人

市民の支え合い

企業や市民団体からマスクやフェイスシールドなどたくさんのご寄附をいただきました。心から感謝申し上げます。



冷凍すし(寄附)



フェイスシールド(寄附)



アマビエ(寄附)



マスク(寄附)

主な独自支援策

南魚沼市プレミアム付き商品券発行事業(R3、R4)

コロナ禍で影響を受けている事業者への経済対策として店舗を対象としたプレミアム付き商品券を発行

【市民生活への支援】

- 児童扶養手当・特別児童扶養手当の上乗せ助成(R3)
- 南魚沼市奨学金返還猶予(R3、R4)
- 水道料金基本料金減免(R3)
- 要保護・準要保護児童生徒家庭学習支援給付金(R3)
- 会計年度任用職員の緊急雇用(R3)
- 臨時出生給付金(R4)
- 温泉入浴券配布事業(R4)
- ドライブインシアター事業(R4)

【事業者への支援】

- 南魚沼市事業継続給付金(R3)
- 南魚沼市経営支援給付金(R3)
- 市民向けプレミアム付き飲食・宿泊券事業(R2)
- 南魚沼市プレミアム付き旅行券事業(R2～R4)
- 南魚沼市がんばる事業者特別支援金(R4)

南魚沼市が歩んだ10年(2014年～2024年)

2004(平成16)年11月1日に誕生した「南魚沼市」は時代とともに発展してきました。
ここでは市制施行10年目の2014年からの今日までの10年間の歩みをご紹介します。

2014

(平成26年)

10月5日 市制施行10周年記念式典

10月5日 埼玉県坂戸市、富山県魚津市と友好都市連携協定を締結

11月1日 市制施行10年



大原運動公園



スペシャルオリンピックス採火式・分火式

3月12日 ハーフパイプ競技で小野塚彩那選手が総合優勝
ワールドカップ女子フリースタイルスキー

5月17日 スペシャルオリンピックス採火式・分火式

5月24日 大原運動公園グランドオープン

6月1日 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院が開院

7月14日 「南魚沼、本気(マジ)丼キャンペーン」を開始

8月1日 南魚沼市上下水道料金センターを開設

9月1日 地域おこし協力隊の任用開始(令和6年8月末現在 5人)

10月1日 南魚沼市スポーツ健康都市宣言

10月30日 南魚沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョンを策定



市制施行10周年記念式典



魚沼基幹病院



地域おこし協力隊委嘱状交付式

「南魚沼、本気(マジ)丼キャンペーン」を開始



南魚沼産コシヒカリを心ゆくまで味わってほしい!

『南魚沼、本気(マジ)丼キャンペーン』とは、日本一の食味を誇るコシヒカリの産地としてのブランド力向上と交流人口の拡大を目的とし、2015年にスタートした食のキャンペーンです。

「産地にしかできないこと」をテーマに、ブランド米として高価で希少というイメージの強い南魚沼産コシヒカリを、市内外の人にお腹いっぱい味わってほしいという企画です。

この米の魅力を知り、この米に惚れ込んだこの街の料理人たちの本気が続々と集まり、老舗食堂のご主人、レストランの若きオーナーシェフ、寿司屋の親方たちなどから、ごはんと具をそれぞれの尺度で大盛りにしたイチオシ丼ぶりを提供していただきます。

南魚沼の本気の味を堪能していただきたいという意味をこめて「本気(マジ)丼」とし、呼びやすさを重視して「マジドン」と命名しました。

10 Years Story

2016

(平成28年)

11月20日

南魚沼市議会議員補欠選挙
南魚沼市長選挙(林茂男氏が初当選 11月28日第2代市長に就任)

8月23日

グローバルITパーク南魚沼が大和庁舎にオープン

6月6日

市議会で黒滝松男氏が議長に、佐藤剛氏が副議長に就任

3月

第2次南魚沼市総合計画を策定

3月28日

大和スマートインターチェンジ24時間化を開始

3月25日

魚沼市、湯沢町と魚沼地域定住自立圏構想形成協定を締結

3月11日

ハーフパイプ競技で小野塚彩那選手が総合優勝?連覇
ワールドカップ女子フリースタイルスキー

2月13日

日本冬季ナショナルゲーム・新潟(14日)(五日町スキー場)
第6回スペシャルオリンピックス

11月5日

市議会で山田勝氏が議長に、黒滝松男氏が副議長に就任

11月1日

南魚沼市民病院が開院



魚沼地域定住自立圏構想形成協定

～関越自動車道～
大和スマートIC
平成28年3月28日(月)午前6時
24時間運用開始
大和スマートIC位置図

大和スマートIC 24時間化



スペシャルオリンピック表彰式



グローバルITパーク南魚沼オープニングセレモニー



南魚沼市長選挙

累計45.5万食!
売上累計
5.7億円達成!

※2024年8月現在

本気井
公式サイト



2017

(平成29年)

- 12月21日 子育ての駅「ほのぼの」をイオン六日町店専門店館にオープン
- 11月25日 国道253号八箇峠道路の一部区間で供用開始
- 11月26日 大巻中学校閉校記念式典
- 11月19日 五十沢中学校閉校記念式典
- 11月12日 城内中学校閉校記念式典
- 11月7日 市議会で小澤実氏が議長に、塩谷寿雄氏が副議長に就任
- 10月29日 大倉橋の供用開始
- 10月22日 南魚沼市議会議員一般選挙(議員定数を26人から22人に削減)
- 10月1日 (六日町市街地で地下水採取のための井戸掘削が可能となる)
「地下水の採取に関する条例」の全部改正
- 7月17日 梅雨前線豪雨(18日)(浦佐・東地区災害が発生、護岸決壊)
- 6月6日 オーストリア共和国セルデン町との姉妹都市盟約35周年記念事業を実施
- 6月1日 ふるさと納税返礼品の贈呈を開始
- 4月17日 一般社団法人南魚沼市まちづくり推進機構を設立
- 4月1日 南魚沼市トレーニングセンターがオープン
- 4月1日 私立南魚沼どんご保育園が開園
- 3月28日 大木六保育園閉園式
- 3月18日 ハーフパイプ競技で小野塚彩那選手が金メダル獲得
世界選手権女子フリースタイルスキー



南魚沼市トレーニングセンター



ふるさと納税返礼品の贈呈開始



八箇峠道路



子育ての駅「ほのぼの」

南魚沼市出身の2人のオリンピック

小野塚彩那さん(石打出身)



©2024 Hiroshi SUGANUMA

2歳からスキーを始め、アルペンスキー、スキー技術選ともにトップ選手として活躍していましたが、スキーのハーフパイプ競技が2014年ソチオリンピックで正式種目となるタイミングで競技転向を決意。日本人女性初となるエクストリーム系スポーツの最高峰X-GAMESのインビテーションを獲得するなど着々と実績を積み、初めて出場した2014年ソチオリンピックでは銅メダルを獲得、2大会連続出場となった2018年平昌オリンピックで5位入賞。その後はフリーライドスキーに転向し、日本人女子として初めてFreeride World Tourへの出場を果たしました。

現在は競技を続けながら『地元へ恩返し』をコンセプトとした『AYANA'S RETURN PROJECT』を2022年から展開し、南魚沼市と湯沢町の小中学校の子ども達に『夢や希望、環境問題』についてご自身の経験を伝える活動を行っています。



2018

(平成30年)

11月17日 大巻小学校閉校記念式典

11月10日 五日町小学校閉校記念式典

4月28日 南魚沼市スケートパークがオープン

4月14日 県道城内焼野線の全線で供用開始

4月1日 環境衛生センターし尿等受入施設の供用開始

4月1日 八海中学校を開校

4月1日 城内中学校、大巻中学校、五十沢中学校を統合し、

4月1日 牧之保育園を開園

3月28日 塩沢保育園・中保育園閉園式

3月2日 浦佐毘沙門堂の裸押合が国の重要無形民俗文化財に指定

2月19日 ハーフパイプ競技で小野塚彩那選手が5位入賞

2月19日 平昌2018冬季オリンピック女子フリースタイルスキー

2月10日 女子バイアスロン競技に田中友理恵選手が出場

2月3日 「ガンホー・モンスターパイプ」ブランドオープン



南魚沼市スケートパーク



毘沙門堂裸押合



ガンホー・モンスターパイプ



牧之保育園



八海中学校

田中友理恵さん(三郎丸出身)



小学校4年生からクロスカントリースキーを始め、インターハイ3位、インカレや全日本選手権で入賞等の成績を収めました。大学卒業後はバイアスロンに転向し、2017年アジア大会のミックスリレーで3位、2018年平昌オリンピック、2022年北京オリンピック出場を果たしました。現在はスキーモ(山岳スキー)に転向し2026年ミラノオリンピック出場を目指して競技活動を行っています。2024年に開催された第17回山岳スキー競技日本選手権大会では、前回大会に続き、シニア女子のスプリントとインディビジュアルの2種目で優勝し、両種目で2連覇を達成しました。



田中友理恵選手報告会

2019
(令和元年)

2020
(令和2年)

- 11月16日 第一上田小学校閉校記念式典
- 11月13日 第24回全国女性消防操法大会に市消防団女性消防隊が出場
- 11月9日 第二上田小学校閉校記念式典
- 11月6日 市議会で小澤実氏が議長に、鈴木一氏が副議長に就任
- 10月12日 令和元年東日本台風(13日)(避難所10か所開設、避難者557人)
- 9月22日 JR浦佐駅構内で米と酒「魚沼の陣」の開催
うおぬま・浦佐駅観光案内所がオープン
- 7月29日 国際交流員の任用開始
- 5月1日 新元号「令和」
- 4月1日 五日町小学校と大巻小学校を統合し、おおまき小学校を開校
- 4月1日 都市計画税を廃止



上田小学校開校式・入学式

- 4月1日 第一上田小学校と第二上田小学校を統合し、上田小学校を開校
- 2月8日 東京都江戸川区と友好都市連携協定をオンラインで締結
- 2月1日 国が新型コロナウイルス感染症を指定感染症に指定



おおまき小学校開校式・入学式



うおぬま・浦佐駅観光案内所



関越自動車道集中降雪

雪国魚沼Golden Cycle Route誕生に至るまで



R4.10.2 第7回グルメライド

平成21年のトキめき新潟国体や平成24年のインターハイのロードレースをきっかけに、平成26年から実業団レース、グルメライドからなる「南魚沼サイクルフェスタ」が毎年開催されています。自転車活用の基盤づくりを進めるため、令和元年10月に行政、民間団体、事業者、市民の力を集結し、自転車を軸にスポーツの力と地域資源の活用による地域活性化に挑戦する官民連携組織として、「RIDE ON 南魚沼プロジェクト実行委員会」を設立。そして、令和3年3月には、湯沢町、魚沼市と連携し、新潟県とともに、道路管理者や自転車に関連する市民団体等で構成する「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」を設立し、魚沼地域に点在する地域資源を自転車で結びモデルルートの形成や、官民連携による地域全体でのプロモーション活動など、広域連携によるスケールメリットを活かした自転車施策を推進しています。

2021

(令和3年)

11月20日 石打小学校閉校記念式典

11月9日 市議会で塩谷寿雄氏が議長に、清塚武敏氏が副議長に就任

11月6日 上関小学校閉校記念式典

10月17日 南魚沼市議会議員一般選挙

9月30日 国道17号六日町バイパス延伸区間(余川地区)で供用開始

9月19日 第1回JBCF南魚沼クリテリウム開催

8月24日 「雪国魚沼Golden Cycle Route」の誕生

8月15日 東京2020パラリンピック聖火リレーの採火を実施

8月2日 市道樋渡東西線(JRアンダーパス部分)の供用開始

7月18日 南魚沼市上下水道料金センターを移転

6月4日 東京2020オリンピック聖火リレーを八色の森公園周辺で開催

4月5日 うえだ保育園を開園

4月1日 こども家庭サポートセンターを開設

4月1日 新型コロナウイルス接種対策室を設置

3月26日 上長崎保育園・下長崎保育園閉園式

12月15日 (車両2100台の立ち往生が発生)
関越自動車道集中降雪(〜18日)

11月15日 南魚沼市長選挙(林茂男氏が再選)

8月5日 東京都江戸川区と友好都市盟約を締結



うえだ保育園



パラリンピック聖火リレーの採火



オリンピック聖火リレー



南魚沼クリテリウム

雪国魚沼Golden Cycle Route(ゴールデンサイクルルート)とは

令和3年8月24日に「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」が設定した湯沢町、南魚沼市、魚沼市を結ぶ全長約193キロメートルの広域サイクリングルートです。雪国ならではの四季の移ろいに富んだ自然はもちろんのこと、地域に点在する雪国の優れた文化や風土を感じることができる魅力的なコースとなっています。ルート名のゴールデンには、コシヒカリの稲穂で魚沼一面が黄金色になる様子と、日本を代表するサイクリングルートになってほしいという願いが込められています。ロゴデザインは、シンプルなデザインを心掛け、三つの丸は雪の結晶と山並みを表現し、無限マークは自転車の車輪とサイクルルートを表しています。ルート名のデザインは、遠くからでも分かりやすいよう、Golden Cycle Routeの頭文字を取り、「GCR(ジーシーアール)」で表現しています。なお、本ルートは、新潟県で初となる、国のサイクルツーリズムの推進モデルルートに設定されました。今後は、ナショナルサイクルルートの指定を目指し、サイクリストが安全で快適にサイクリングを楽しめる走行環境と受入環境整備に取り組んでいきます。



雪国魚沼市連携自転車活用推進協議会

2022

(令和4年)

2023

(令和5年)

- 2月1日 官民学連携の研究組織「雪の勉強会」コアメンバー会議を発足
- 3月 女子バイアスロン競技に田中友理恵選手が出場
北京2022冬季オリンピック
- 3月31日 ふるさと納税の寄附額が新潟県内で1位、45億円達成
- 4月1日 南魚沼市事業創発拠点「MUSUBI・BA」がオープン
- 4月1日 上関小学校と石打小学校を統合し、石打小学校を開校
- 8月 ふるさとワーキングホリデーを開始(令和6年8月末時点延べ132人受入)
- 9月3日 上越線開通90周年記念式典
(越後湯沢駅に岡村貢翁顕彰レリーフを設置)
- 11月4日 南魚沼市上田雪国スポーツセンターがオープン
- 12月7日 国道291号西泉田バイパスの供用開始
- 8月1日 雪をエネルギー源として活用する実証実験を開始
- 8月1日 研修先を米国ワシントン・ニューヨークに変更
中学生高校生海外派遣研修事業の再開
- 7月 夏の高温・渇水に伴う農作物等の被害
- 4月1日 市立城内診療所を市民病院附属診療所へ移行



石打小学校開校・入学式



ふるさとワーキングホリデー1年目参加者



岡村貢翁顕彰レリーフ

南魚沼市の偉人 上越線の父

岡村貢(石打出身)



川端康成の小説『雪国』の冒頭、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」はとても有名な文章ですが、「国境の長いトンネル」がJR上越線の清水トンネルであることはご存じでしたでしょうか。上越線は、群馬県の高崎駅から長岡市の宮内駅までを結ぶ鉄道路線で、南魚沼市民にとっても馴染みの深い路線です。「上越線の父」と呼ばれた岡村貢は南魚沼の出身で今も石打駅前には銅像が設置されており、上越線を見守っています。岡村は、1836年5月25日、南魚沼郡塩沢町下一日市の酒造業・質屋を営む総代庄屋の家の長男として生まれました。当時、岡村家は郡内第一の豪農で、年間3千俵の年貢米が入り、明治初年の地価総額は3万円以上あり、「群馬県まで他人の土地を踏まないで行ける」と言われたほどでした。岡村は、明治5年(1865年)の廃藩置県とともに、柏崎県第4大区長、続いて新潟県第13大区長となり、明治12年(1872年)には、南魚沼郡初代郡長に任命され、小学校や病院、金融機関の設立、道路・河川の改修などに尽力しました。

2024

(令和6年)

9月29日 市制施行20周年記念式典

8月31日 東京上野で首都圏交流会を開催
南魚沼市の新しい交流創出を目的に

4月1日 東地区に里山会館「ほっか」がオープン

4月1日 北里大学が健康科学部を開設

4月1日 集落支援員の採用開始

2月22日 寺裏雨水幹線の全線で供用開始

2月2日 全国7自治体がおにぎりサミット(東京大手町)を開催
南魚沼市の呼びかけにより、

1月1日 能登半島地震(市内震度5弱)

MINAMI ONUMA 20th



うしやり

11月7日 市議会で清塚武敏氏が議長に、寺口友彦氏が副議長に就任

11月1日 子ども・若者相談支援センター「活動ルームやまと」を開設

10月13日 オーストリア共和国セルデン町との姉妹都市盟約40周年記念事業を実施



セルデンとの姉妹都市盟約40周年記念事業



おにぎりサミット



小学校の20周年キャラ、ロゴ投票の様子



六日町駅開通

彼の終生の大事業となったのが上越線の敷設です。岡村は郡長に任命された頃から、新潟、東京間を走る鉄道の必要を感じていました。明治27年(1894年)に衆議院議員となり上越鉄道敷設を議会に提案するも否決されたことから、南雲喜之七などの仲間を集い、上越鉄道株式会社を設立。私財を投じて、事業をまい進するも、日清戦争後に国内経済が不安定となった影響から会社解散を余儀なくされました。その後、志を引き継いだ人々とともにその尽力が実を結び、政府は国防の観点から上越線の重要性に気づき、国有鉄道とする方針を決定しました。大正9年(1920年)に長岡、東小千谷間が開通し、85歳の岡村は祝辞を読みましたが、2年後の大正11年(1922年)年に上越線全線開通を待たず逝去しました。その後、清水トンネルが昭和4年(1929年)12月29日に貫通し、昭和6年(1931年)9月1日に上越線が全線開通しました。



南魚沼市

MINAMIUONUMA



南魚沼市市制施行20周年記念誌

2024年9月発行

【編集・発行】南魚沼市役所 総務部 企画政策課

〒949-6696 新潟県南魚沼市六日町180番地1

TEL: 025-773-6672 FAX: 025-772-3055

URL: <https://www.city.minamiuonuma.niigata.jp>

印刷: 三条印刷株式会社